



3/14
(火)

援農隊の現地研修会を開催

町農業公社では、平成27年7月に援農希望者を登録する人材バンク制度を設立し、平成28年4月から援農隊のあっせんをしています。

14日には人材バンク登録者9人が参加し、技術向上を目的とした現地研修を実施しました。参加者は下石崎地内前谷公民館でベビーリーフ農家の講話を受けた後、実際にビニールハウスでベビーリーフの収穫作業を体験。そのほかにも、JA水戸の営農指導員から、肥料・農薬等の使い方について講義を受けるなど、援農に役立つ研修となりました。

当公社では、今後も農業生産力の維持・拡大を支援し、農家の下支えとなる活動を実施していきます。

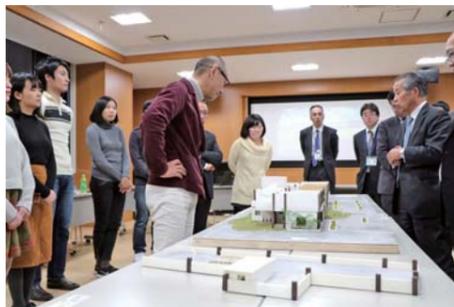


3/17
(金)

産官学連携 東京理科大生が廃校の利活用を提案

町は、平成26年度に東京理科大学工学部坂牛研究室及び株式会社リーテムと技術指導契約を締結し、小学校の廃校活用方策について調査・研究をしてきました。

17日には、連携事業の集大成として、同研究室の学生により、旧広浦小学校を活用する提案発表が行われました。学生は、既存の内装を生かしつつ、建物の壁にボルダリングの設置、芸術家の作品展示やワークショップを行うアートスペース、宿泊室の整備などを提案。また、東京理科大学の学生約100人のアンケート結果では、「スポーツ合宿」や「ゼミ合宿」などとして施設を利用したいとの回答が多かったことも報告されました。



3/28
(火)

常陽銀行 防犯ブザー寄贈

町内の小学校新1年生の安全を守るため、常陽銀行長岡支店から、防犯ブザー255個が寄贈されました。

これは同行の地域貢献活動の一環として、町内の子どもたちに自分自身の安全を守る手段の一つとして活用してほしいという願いで行われています。寄贈は、平成17年に同行創立70周年を記念にスタートし、今年で13回目となります。



2/23
(木)

きらり☆子どもあんどん2017 作品表彰

茨城町商工会青年部は、茨城町民の日（2月11日）に「きらり☆子どもあんどん2017」を町運動公園にて開催。町内の小学校の児童からは、家族や地域の自慢や将来の夢などを絵や文字で自由に表現した行灯1566点が出展されました。

23日に開かれた審査会では、展示した行灯の中から、石井琴葉さん（青葉小学校1年）と堀田笑夢さん（葵小学校6年）の作品を最優秀賞に決定し、二人には表彰状が贈られました。



石井琴葉さん（青葉小学校1年）

堀田笑夢さん（葵小学校6年）

3/10
(金)

町内中学校卒業式

10日に町内各中学校で、22日には町内各小学校で卒業式が行われ、学校生活を終えた児童生徒が、思い出が詰まった校舎から旅立ちました。

式では共に学び遊んだ同級生や後輩、お世話になった先生たちとの別れを惜しみ、涙する卒業生の姿も見られました。



3/22
(水)

町内小学校卒業式

3/12
(日)

涸沼周辺クリーン作戦

涸沼やその流域の水質浄化実践活動の一環として、涸沼自然公園を中心に、涸沼周辺クリーン作戦（茨城町ネットワーク等連絡協議会主催）が行われました。12日は地元企業、団体、学生、地域住民など約250人が参加し、燃えるごみ（総量170kg）と燃えないごみ（総量270kg）を回収。涸沼の自然に触れながら、きれいな涸沼を次世代に残す意識を高める機会になりました。



3/21
(月)

今年も早い！町産メロンの初出荷

町内産のメロンが、初出荷を迎え、相田久男さん（宮ヶ崎）がオトメメロン計109ケースを市場へ出荷しました。

昨年と同日の初出荷となった21日、JA水戸の茨城町メロン部会（石川峯男部会長）をはじめ、関係者が城之内の集荷場で初出荷を祝いました。町内産のメロンは、今後、5月上旬から下旬に、出荷のピークを迎える見通しです。

